

「同窓会奨学財団」へのご寄附のお礼とお願い

公益財団法人埼玉県立川越高等学校同窓会奨学財団
代表理事 菊池 建太

令和元（2019）年、母校の創立120周年を機に、下記の3本の柱への助成により人材育成に寄与し、母校の教育活動を支援するため、「公益財団法人埼玉県立川越高等学校同窓会奨学財団」の設立が認可され、今年度で6年目を迎えます。

生徒たちは川高の伝統のもと、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を実現すべく、勉学、部活動、学校行事等に全力で取り組んでいます。将来、日本を背負い、世界平和に貢献する人材や地域社会の核となる人材の育成に資するため、同窓会として母校を継続的に支援する必要があるものと考えます。これまで、同窓会員の皆様からは、令和元年度からの5年間で、3,461人・3団体から計4,086万4,479円の貴重なご寄附を頂戴しました。ご協賛いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

寄附金は、①学習意欲の旺盛な生徒への奨学金の給付、②先進的な「川高サイエンス探究」の支援、③「Go Global！ 高い志、世界へ向けて！」（GLPグローバル・リーダーシップ・プログラム）の支援に充てられます。これまでの5年間に計1,734万円を給付、助成することができました。令和5年度はコロナ禍を過ぎ、3つの柱への支援が大変喜ばれております。今後も、本財団による母校への支援をさらに充実させ長期に継続していくため、会員の皆様には本財団の趣旨にご賛同の上、特段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度の事業及び寄附の状況

◆ 事業実施状況

- ① 奨学金給付：189万円
- ② 「川高サイエンス探究」への助成：100万円
- ③ 「GLP」（Step 3：ボストン短期留学）への助成：150万円

◆ 寄附金募集事業

寄附者：364人・3団体 寄附金：544万8,979円

「同窓会奨学財団」へのご寄附の方法

- 金 額 一口5,000円（できましたら複数口でお願いいたします。）
- 振込方法 同封の奨学財団専用の振込用紙をご利用ください。
- ご寄附いただく方には、公益財団法人のもとでの優遇措置があります。

奨学財団の支援に係る教育活動

川高サイエンス探究 (SSHから川高独自のチャレンジへ)

(同窓会報p.17参照)

この事業は、「総合的な探究の時間」(月曜7限)を中心に、東京大学や理化学研究所、高エネルギー加速器研究機構などと連携した特別講座の実施、外部コンテストへの参加、他高校や地元小中学校との交流などを展開しています。ノーベル物理学賞受賞者の梶田隆章先生にも毎年ご指導いただいています。

〈生徒研究発表会での感想〉

- ◇専門性の高い研究に参加でき、自分が将来携わるべき方向性を決めていく上で大いに役立てていきたいと思った。
- ◇プログラムを通して様々な経験ができ、とても面白かった。研究では、時間がかかり、かなり難しいものだったが、先生方からのアドバイスがあり、研究において大事なことなどを教えていただき、とても有意義だった。
- ◇何時間もかけて一つのことを研究するのは初めてだったが、とても面白くいろいろなことが学べた。今後の進路や自分の生き方に是非活かしていきたい。
- ◇プレゼンの中で、グラフの取り方、考察の仕方、表計算ソフトや文書作成ソフトの使い方もわかって良かった。プレゼンをさらに上達できるようにしたい。
- ◇科学分野の高度なテーマについて、同じ興味をもつ人たちと一緒に学び合い、切磋琢磨できたことが何にも代えがたい経験となった。



日々の探究活動



梶田先生からの指導講評



冬休み科学教室

奨学金受給生徒の卒業後の感想

- ◇私が第一志望である国立大学医学部に入ることができたのは、奨学金によるところが大きいと思います。私の家庭はあまり裕福な方ではなく、一時期アルバイトをしようか迷うほどでしたが、奨学金のおかげで学業に集中することができました。同窓会の皆様には感謝してもしきれません。

グローバル・リーダーシップ・プログラム (GLP: Global Leadership Program)

Step3の海外短期留学は、コロナ禍により実施を見合わせてきましたが、ようやくボストンでの海外研修（本年3/23～31）が実現し、15人の生徒が参加しました。

〈参加生徒の感想〉

◇ハーバード大学ケネディスクールで学ぶ日本人経営コンサルタントの講演を聞いて、自分の生活や人生を変えるため、情報強者になること、成長曲線を上書きし続けること、今の自分を記録し続けることを頑張っていきたいと思った。



ハーバード大学



マサチューセッツ工科大学

◇マサチューセッツ工科大学（MIT）は世界一だから遠いという存在ではなく、世界一だからこそ身近な存在でもあると感じた。また、行動力があれば、自分の想像していないこともできるということに気付かされた。

◇MITでの座談会では、柔軟性を持ち、かつ、何でもかんでもただ受け入れるのではなく、与えられていることの意味を考え、疑問を持ち、自由に発想していくことが新たな発見につながるということを学んだ。理系の大学なので、文系の自分には何が学べるのかという心配もしていたが、文系理系の枠を超えた、自分の考えに大きな影響を与える経験をする事ができた。

◇今回の研修で、分からないことは「分からない。」と伝えて、とことん聞く勇気を学んだ。1週間、海外で生活するうえで、どうしても分からないことが出てくる中、本当にこれが大切なんだと知った。これは普段の生活でも活かせると思う。



奨学金受給生徒の卒業後の感想

◇私は父を亡くして以来、ひとり親家庭での生活は大変ではありましたが、奨学金をいただけたおかげで、何不自由なく高校生活を満喫し、学業や部活動に専念することができました。現在も充実した大学生活を送っていますが、2年次からは希望していた社会学コースで今まで以上に意欲的に学んでいきたいと思えます。